

能登の農と漁、人々の生活を道具で支えたい。
そして、使い手が満足するものを追及し続ける。



意匠登録1571943
巻き貝の身取出具

■ 経営課題（なぜ本事業を利用？）

自社の鍛造技術を活用しての新事業参入を目指していましたが、ターゲットとした新製品のプロダクトデザインについては社内に十分な知見がなく、**関係業界や技術開発の動向、そして、どのようなプレーヤーに注意を払えばよいか**等が把握できていない状況でした。

分析のポイント

国内外の特徴的な技術を目視調査にて抽出しました。**特許・実用新案のみならず、意匠も対象範囲としました。**

わかったこと

抽出案件	参考資料	合計件数
23	63	86

	全体形状	さじ	柄	取手	補助具	人間工学	素材
該当	22	19	4	0	0	3	1
参考資料	55	28	33	11	13	2	9

さじ
匙、柄…など各部位で先行プレーヤーの出願状況が把握できました。併せて、業界全体の技術開発動向が見えてきました。

目視調査の結果概要

■ 分析結果の活用

特許情報分析で明らかになった他社の課題やその解決手段は、自分では認識していなかったものもあり、自社の製品開発においてとても有益な情報となりました。**今後も鍛冶屋としての特色を活かした製品開発を進めていく中で、自信を持って次の一手を打つことができます。**

PROFILE | 企業情報



四代目 干場 健太郎氏（左端）

ふくべ鍛冶は、能登の里山・里海で働く人を支える道具の製造・修理を100年以上に渡り手がけてきました。海と山では作業に用いる道具の形状が大きく異なり、また同じ道具であっても、鍬などの形は地域によってそれぞれ違います。私たちはこれからも、お客様の要望を取り入れながら改良を重ね、使い手が満足できる道具を作り続けます。

所在地：石川県鳳珠郡能登町 事業内容：金物鍛造業 製造・修理・販売
創業：1908年

■ 本事業のメリット

申請から採択までの手続きが大変スムーズでした。また、**分析結果の報告を受ける中で、いろいろな気づきもありました。**特許情報の専門家によるアドバイスもありがたかったです。